

キャンパス散策（四国学院大学）



四国学院大学がある香川県善通寺市は人口約3万5千人の地方都市で、日本史に残る偉大な僧「空海」の生誕の地として知られています。この地で、数名の米国人宣教師を含む四国学院大学の創立者たちが、善通寺十一師団騎兵隊跡地を買収し、1949（昭和24）年に「財団法人 四国基督教学園（現在の四国学院大学）」を創設しました。以来、本学はキリスト教主義を建学の精神の根幹として充実発展の道を歩み続け、今年で創立60周年の節目を迎えます。



清泉礼拝堂

【教育研究の基本的な組織】

本学の学部学科は、文学部（言語文化学科、人文学科、教育学科）、社会福祉学部（社会福祉学科、子ども福祉学科）、社会学部（応用社会学科、カルチュラル・マネジメント学科）の三学部七学科。加えて大学院には文学研究科比較言語文化専攻、社会福祉学研究科社会福祉学専攻、社会学研究科社会学専攻があります。また、建学の精神に関係する附属機



大学キャンパス風景

関として、キリスト教教育研究所や、開学以来地域社会に公開されてきた長い歴史をもつ図書館があります。2006（平成18）年に設置された「総合教育研究センター」では教養教育、教職および諸資格修得課程、現場実践研究・実習の3つに関する本学全体のカリキュラム領域を、運営ならびに統括しています。



ノトス館（8号館）2006年度竣工

ノトス館は2007年度に「香川県福祉のまちづくり賞」を受賞しました。



ノトススタジオ調整室



ノトス館（8号館）1F ノトススタジオ



エクテス館（図書館）2006年度竣工



【四国学院大学の特色】

1. 障害学生支援制度

四国学院大学は1966年（昭和41年）に中四国の中でいち早く「社会福祉学科」を設置して以来、社会福祉に関する研究を重ねてきました。2003（平成15）年12月、人権と文化の多様性に関する委員会（The Committee for Human Rights and Cultural Diversity=以下CHC と略記）の設立により、これまで身体障害者委員会が管轄してきたノートテイク・サービス制度、アテンダント・サービス制度を統合し、「障害学生

支援制度」として一本化し、障害学生支援小委員会の設置、関連内規の整備を行いました。ノートテイク・サービスとは、聴覚に障害を持つ学生のための講義保障として、ノートテイクが授業において手書きまたはパソコンにより、利用者のために授業内容や連絡事項を文字化して表示するサービスです。また、授業で使用する教材ビデオに字幕をつける「ビデオテイク」も行っています。

アテンダント・サービスは、四肢障害などにより車いすを利用している学生または歩行に障害のある学生、視覚に障害のある学生らに対して、学内での移動、食事・トイレ介助、授業でのノート代筆、講義資料の点訳、音訳などを行うものです。

その他、CHCの活動としては、CHC オリエンテーション、マイノリティ・ウィーク、人権週間、CHC 現地研修、メンタルヘルスケア研修、新任教職員研修等を開催し、人権啓発活動を行っています。

こうした障害学生支援制度の運用に対して、全国の大学における障害者受け入れ状況や支援体制の調査を行っている「全国障害学生支援センター」(<http://www.nscsd.jp/>)から本学は毎年高い評価を受け、週刊朝日進学MOOK「大学ランキング2009年版」に公表された障害学生支援部門では全国745校中の総合8位にランクされました。



身体障害者用トイレ



エレベーター内手摺り



点字案内板



身体障害者専用駐車場



点字付手摺り



全国の大学初！
視覚障害者誘導用ブロック型音声案内装置「ブロックボイス※」設置（2008年度）
※国土交通省・新技術情報システム（NETIS）に登録されている地面への埋め込み式の音声案内装置

2. キャンパス・ソーシャルワーカーの配置

大学のユニバーサル化に伴い、入学してくる学生の多様化とともに、さまざまな心の悩みを抱える学生が増加傾向にあります。こうした背景を受けて、本学ではいち早く学生相談室を設置し学生のメンタルヘルスケアについてサポートする体制をとってきました。2008（平成20）年度からは、専任のキャンパス・ソーシャルワーカーを配置し、学生、教員からの相談業務を開始。さらなる学生支援体制の強化に努めています。